

土

木技術者女性の会は、女性土木技術者の相互支援ネットワークとして、一九八三年に約三〇名で発足した。当時は極めて珍しい存在だった女性土木技術者も、最近では「ドボジョ」という愛称(?)で一般に認知されるようにもなり、今や特別な存在ではなくなった。二〇一二年には創立三〇周年記念イベントとして、会のシンボルロゴを公募により決定し、土木の意義と使命を考える「どぼく未来フォーラム」を開催した。さらに、二〇一三年十一月には、任意団体から一般社団法人に会の体制を整え、新たなスタートを切った。

このように当会は、女性土木技術者の質の向上と働きやすい環境づくりを目的として、全国規模の総会やシンポジウム、地区における見学会やセミナー、次世代向けに土木技術者の仕事を解説した「Civil Engineer <の扉」の出版などを通じて、幅広い年齢層のロールモデル提供の場、指導者育成の場、キャリア継続支援の場を提供してきた。そして、長年にわたる地道で継続的な活動が評価され、内閣府が主催する「平成二十六年度女性のチャレンジ賞」を受賞した。今各方面において、男女共同参画推進の波が高まっている。当会としては当然歓迎すべき傾向と捉えているが、同時に急な光の当てられ方に少々戸惑いも感じる。言うまでもなく、一人前の「ドボジョ」は急に湧いて出てくるわけではなく、相応の時間をかけて育つものだからで

各 人 各 説

土木技術者女性の会の活動と今後の方向

土木技術者女性の会 会長 / 東京大学生産技術研究所 教授

桑野玲子

Reiko Kuwano



ある。女性の積極的活用の観点から指導的立場に三〇%程度の起用を目指すという数値目標が掲げられているが、そもそも技術者における女性比率が数%の土木分野において無理な数合わせに終始することのないよう注意が必要である。

これまでも男女共同参画の機運はたびたび盛り上がり、女性技術者を取り巻く環境や人々の意識は少しずつ前進してきた。今回の「波」において特に期待するのは、女性のみならず男性の意識や働き方を見直す動きが感じられる事である。ダイバーシティ推進は社会全体の、そして男女を超えた個々の利益(幸福)追求のためであり、単なる少数派の救済策ではないと認識すべきである。多様な個性や能力を尊重した働きやすい環境を実現するためには、少数派に合わせたみることという策が有効に働くと聞いた。少数派が懸命に多数派の働き方に合わせてきた従来の方法では環境改善はなかなか進まない。男女共同参画推進の具体的方策は、誰にとっても働きやすい環境創出のためのステップである。

土木技術者女性の会は、これまで活動の主な対象を女性に絞り、一定の成果を挙げてきた。「特別な」能力がなくても志があれば活躍の場があり、ワークライフバランスを実現しながら社会に貢献出来る事を会員のキャリアで示してきた。これからは活動の幅と対象を広げ、土木技術者の社会的地位向上と働きやすい環境づくりへ向けて、より積極的に展開したいと思う。